

目次

会長就任にあたって	1p	学会後援・協賛行事などのお知らせ	6p
第17回研究発表大会のお知らせ	2p	地方事務局報告	7p
春季総会特別シンポジウム開催報告	3p	学会周辺の動向報告	7p
学会理事会・総会の報告	4p	GIS関連書籍の書評	8p
学会からのお知らせ、委員会報告	6p	コラム、事務局からのお知らせ	9p

会長就任にあたって 「地理空間情報を使って上向きスパイラルを回そう」

地理情報システム学会会長 柴崎亮介 (東京大学)

この4月に行われた学会総会で、会長に選出いただきました。

地理情報、あるいは地理空間情報がいろいろところで話題になっています。比較的最近では、屋外・屋内での活動のためにロボットが読む地図が不可欠であること、またロボットが他のロボットと連携して情報を収集し、地図を共同作成する技術が国際標準に向けて提案準備中であることなどが印象に残っています。一方、地球温暖化、気候変動などに関する国際的な取り組みであるGEOSS (Global Earth Observation System of Systems: 全球地球観測システム) においても、さまざまな観測機関や研究者から寄せられる観測情報を整理するための基本的なキーとして「位置・場所」が用いられています。

一昔前までは、アナログをデジタルに変換していくというのが「情報化」とされてきましたが、現在ではそもそもデータの多くが“生まれながらにデジタル”(Born Digital)です。それらをゴミにすることなく、いかに上手に整理し関連づけ、高い価値のある情報へ変換していくかがこれからの「情報化」になります。

データを地図に落としてみればはじめて全体の状況や、どこが特異な場所なのかはわかるとよく言われますが、まさに情報に位置や場所を添付して「地理空間情報」にすることは、単なるデータの塊を情報に変える有効な情報化のアプローチであると言えるでしょう。情報を知識とさらに読み替えていきますと、断片的な知識を位置や場所を手がかりにしてさらに大きく組み立てていくことが可能になるとも言えそうです。たとえば、局地的、限定的な知識を積み重ねていくことで、より大規模で複雑なシステム、たとえば地球環境システムやグローバル経済のダイナミクスに関する理解を深めることができるでしょう。もちろん、知識はつなげれば勝手に深まり発展するというわけではありません。つないだ知識が本当にあっているのかどうか検証し定量的なモデル(これは計算可能、持ち運び可能な知識です)へとアップグレードしていくためには、さまざまな観測値による吟味・検証が不可

欠です。このためにも観測値をきちんと「地理空間情報」に整理・管理しておかなければなりません。

実は、こうした知識やモデルがデータを情報化する過程で非常に重要な役割を果たします。たとえば、観測したい、あるいは今何が起きているか知りたいと思っている人から見れば、全ての場所、時刻について、その「状態」に関するデータがあれば最高です。まさに「神の眼」のデータですね。しかしすべてを同時に観測することは不可能ですので、実際には観測されていない場所・時刻の「状態」を知るには、観測値を内挿あるいは外挿しなければなりません。正確な内挿・外挿のためには「状態」が空間的、時間的にどのように変化するかを理解しておく必要があります。空間的、時間的にどのように変化するかという理解、それがまさにモデルですから、要するにきちんとした知識・モデルがあれば、断片的でしかない観測データから、欠けたところのない稠密な時間・空間データ、「神の眼」から得られるようなデータを生成することが可能になるというわけです。このように、データをきちんと整理しておくことで、知識を検証・改善でき、それが情報を生産することを可能にする、するとその情報が知識をさらに改善する……。こうした上向きのスパイラルを回すこと、がまさに実現しなければならないことだと思えます。

この世界に関する多様なデータの計測・収集や処理・分析を、場所・位置と関連づけて行う。地理空間の中で実際におきているさまざまな現象の理解を深め、それを分かり易いモデルとして表現する。データやモデルを眺みながら世界をどのように誘導すべきか、発生しつつある問題にどのような対処すべきかを明らかにする。GIS学会の会員の方々が進めているこうした多くの活動を、なんとか効果的に支援し、関連づけ、ポジティブなスパイラルが回るように努力する。こうしたことが学会のミッションであると考えています。しかし、学会がその役割を果たすためには会員からの自発的な貢献が必要です。会員の皆さんからの一層のご協力、激励などをお願いして、就任の挨拶とさせていただきます。

【第17回研究発表大会のお知らせ】

第17回研究発表大会を、以下のとおり開催いたします。例年どおり、大会発表および機器展示を募集いたします。

今年度は第10回日韓国際シンポジウムの開催もありますので、多くの方々の参加をお待ちしております。

学生会員を対象とした「大会優秀発表賞」も引き続き設置されます。

下記の注意事項をよく読んで、奮ってご応募下さい。昨年度とは手続きが変更されましたのでご注意ください。

なおこの件に関し、学会ホームページと情報が異なるときは、ホームページの情報が優先されます。

■ 開催要領等

大会日程：2008年10月23日（木）～24日（金）

場 所：東京大学生産技術研究所（駒場Ⅱキャンパス）

（<http://www.iis.u.tokyo.ac.jp/access/access.html>）

参加費：正会員または賛助会員枠の参加者 2,000円

学生会員 1,000円

非会員（一般：大学院生以上） 4,000円

非会員（大学学部生） 1,000円

高校生以下、70歳以上 無料

（一般・大学院生以外の非会員は必ず、学生証または年齢を証明するものをご呈示ください）

懇親会費：4,000円

※特別セッションと機器展示は参加費無料で入場できます。

※つり札のないようお願いいたします。

※当日は、領収書を発行いたします。

■ 論文募集案内

発表内容：

①講演発表

論文の提出を要し、地理情報システムに関する理論研究・応用研究の成果で原則として未発表のものとする。独立性・完結性のないものは認めない。

②ポスターセッション発表

研究形成段階の討論や調査・活動報告などでもよく、論文の提出を要しない。（自由で活発な情報交換の場としての活用が可能。また、論文を提出すれば、論文集に掲載できる）

但し①②とも、商業宣伝的な内容のものは認めない。

応募資格：

①地理情報システム学会員であるか否かを問わない。ただし、発表者または共著者のうちいずれか1名は学会の個人会員であること。

また、賛助会員については、1口につき個人会員1名分の発表資格を有するものとみなす。

なお、応募者が複数の発表について共著者となることは妨げないが、発表者となるのは1人につき1題に限る。（国際シンポジウムとの重複は構わない）

ただし、同題目で講演発表とポスターセッションでの発表の両方を行うことは差し支えない。

②大会会場において指定された日時に発表できるもの（発表日時の希望は受け付けない）。

また、会場の都合により発表総数を制限する場合があります。

③2008年度までの年会費完納者

【発表申し込み手続き】

1. アブストラクトの送付 7月1日（火）～18日（金）

2. 講演論文集用原稿の送付 7月1日（火）～8月25日（月）

※ 昨年度とは手続きが変更になっておりますのでご注意ください。

7月18日までにE-mailにてアブストラクトをご提出いただき、その後、講演論文集用原稿をお送りいただくことで、発表申し込みが完了いたします。

詳しい手順は6月中にホームページ上でお知らせいたします。

発表の可否：

9月10日（水）までに申込者全員にE-mailで通知する。（全体のプログラムは、ニューズレターと学会ホームページに掲載する）

■ 第10回日韓国際シンポジウム発表論文募集

文部科学省より平成20年度科学研究費補助金（研究成果公開発表C）の助成を受け、「東アジアにおけるGIS利用と地理空間情報政策に関する国際シンポジウム」としての開催となります。大会初日を予定しており、前半は基調講演、招待講演、パネルディスカッションを通じて東アジアにおける地理情報の利用や政策動向を欧米諸国と対比してその特徴を明らかにしつつ、各国の比較に焦点を当てた情報交換、議論が計画されています。後半は基礎理論、都市・地域解析、教育、社会的な利用と受容など、みなさまの発表で構成されます。応募要領は「大会論文募集案内」と同一ですが、論文原稿と発表は英語に限ります。また発表者が大会のセッション発表者と重複しても構いません。

なお、この国際シンポジウムのみの参加は無料です。

■ 第4回大会優秀発表賞案内

学生会員の発表レベルの向上を図る目的で、本年度も「大会優秀発表賞」を設けます。

選考対象者：以下の要件を満たす者

① 本学会の学生会員であること（大会発表のエントリーと共に入会届を送付した者を含む2008年度までの年会費完納者）

② 修士号未修得であること

③ 講演発表の発表者であること

受賞候補者は、研究（論文）内容、発表技術の優秀者からセッション司会者が推薦し、学会賞委員会の中に設置される大会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。

なお受賞者受賞者には、賞状と副賞を後日送付すると同時に、GISAニューズレター68号に所属・氏名を発表します。

■ 機器展示募集案内

展示内容：パソコンまたはワークステーション上で稼働するGISのデモソフトとする。

応募資格：学会賛助会員に限る。出展費用は無料。

応募要領：①～⑧を明記し、E-mailで事務局に提出する。

① 会社名（所属）

② 連絡先住所、電話番号、E-mailアドレス

③ 担当者名

- ④ 展示ソフト名称
- ⑤ 展示概要（デモンストレーションの内容200字程度）
- ⑥ 展示システム（パソコン・ワークステーション）
- ⑦ 希望電気容量
- ⑧ 希望日（連日も可）

応募先：office@gisa-japan.org

受付期間：2008年7月1日（火）～8月31日（日）

展示の可否：9月23日（火）までに機器展示要項とともに展示企業連絡先へE-mailで通知する。

※ 会場の都合により、各日の展示件数及び1社当たりの機器構成（電源容量）について調整することがある。

※ 展示概要⑤は、ニュースレター67号に掲載する。

【春季総会特別シンポジウム開催報告】

■ イノベーション25 社会還元加速プロジェクト

～国民一人ひとりに災害情報を届けるシステム
構築を目指して～

【独立行政法人防災科学技術研究所 長坂俊成】

2025年までを視野に入れた我が国のイノベーションの創出・促進に関する政策として、長期戦略指針「イノベーション25」が閣議決定（平成19年6月）された。平成20年度より、技術革新戦略ロードマップの具体的施策である「社会還元加速プロジェクト」の一つとして、「きめ細かい災害情報を国民一人ひとりに届けるとともに災害対応に役立つ情報通信システムの構築」に向けて、政府が一丸となった取組が進められている。同プロジェクトは、当面5年間で、地理情報システムなどの各種情報技術を用いて災害・被害情報を1枚の地図に統合化して一元的に管理・共有できる新たな情報通信システムの構築や、国民一人一人に迅速に伝達可能な通信網と情報端末を開発する等を目標としている。

そこで、本学会では、同プロジェクトのサブリーダーである名古屋大学大学院・福和伸夫教授に、同プロジェクトの狙いと概要についてご講演いただくとともに、各府省及び研究機関等の担当者から、目指すべき災害情報の共有及び社会的な利活用のあり方について話題提供をいただき、会場との活発な質疑応答が行われた。福和サブリーダーからは、防災及び災害対応の視点から、府省や自治体に散在している災害リスク情報を社会的に共有するプラットフォ

ームの整備の重要性が指摘された。

引き続き、関連府省等の7名の担当（敬称略）から以下
の話題提供がなされた。

- ①日下彰宏（内閣府上席政策調査員）：「イノベーション25」に基づく「社会還元を加速するプロジェクト」の位置づけと枠組み、その推進体制や目指すところを紹介。
- ②安田吾郎（内閣府・防災担当企画官）：GISによる災害情報の取り扱いについて、災害リスク情報の規格化等、兵站の「見える化」等の取り組みについて紹介。
- ③原野崇（国土地理院防災企画官）；各関係機関や個人が有する情報を共有し、災害予防・応急復旧を効率化することを目的とした災害情報共有システムの開発とその基盤となる電子国土Webシステムとその過去の災害における活用例を紹介。
- ④小路泰広（国土技術政策総合研究所地震防災研究室長）：災害情報システムを災害対応の現場で活用するための取り組みを紹介。
- ⑤阪口圭一（独）産業技術総合研究所地質情報統合化推進室長）：地質情報の整備と発信について、活断層データベース、グリッド技術を用いて分散した各種のリソース（計算機、データ、アプリケーション）を安全・高速に処理・提供するGEO Gridについて紹介。
- ⑥細川直史（消防庁消防技術政策室主任研究官）：消防防災分野におけるICT活用のための連携推進事業により研究機関のシーズと消防側の現場ニーズをマッチングさせ、共同して研究開発を行う枠組について紹介。
- ⑦長坂俊成（独）防災科学技術研究所防災システム研究センター長補佐）：災害リスク情報の分散相互運用環境とその利活用に関する研究開発として、災害リスクを考慮した個人や世帯のライフプラン支援や、地域コミュニティの防災力を支援するサービスに関する研究計画を紹介。



これらの話題提供を受けて、会場からは、防災分野以外で先行しているGISに関する知見や技術、国際的な技術標準化動向を踏まえることや、自治体との連携、民間の技術力やサービス力、社会貢献力を視野に入れた利活用システムの研究開発を巡り活発な質疑が交わされた。柴崎新会長からは、既往の地理空間情報に関する知見や技術で早期に実現できることがあるとの指摘があった。長期戦略に基づく研究開発と社会還元というミッション志向の研究開発のバランスをとったプロジェクト運営が課題となると考えられる。今後のプロジェクトの推進に際しては、異分野技術融合、官民協力、府省融合、システム改革、技術の社会システムとしての実証が期待される。



【学会理事会・総会の報告】

■ 2008年度 第1回理事会・総会報告（今井 修）

2008年度第1回総会が、特別シンポジウムに引き続き、下記の通り開催された。

日 時：2008年4月26日（土）15時45分～17時30分

場 所：東京大学本郷キャンパス・工学部14号館141番教室

【第1号議案】「平成19年度事業報告」、「GIS学会法人化検討報告」、「国立大学教育研究評価委員会の選考過程について（報告）」、「平成20年度科学研究費補助金（研究成果促進費）の交付内定」について。

大澤事務局長より「平成19年度事業報告」について説明があった。科学研究費補助金については、KAGIS及び東アジアの研究者を招聘してのシンポジウムに充てられることが説明された。

今井総務担当理事より、「GIS学会法人化検討の経過報告」について、GIS学会は任意団体のため、一般社団法人を経由し、公益社団法人の申請をする必要がある旨の説明があった。

以上の内容について承認された。

【第2号議案】平成19年度会計報告、監査報告について。

大澤事務局長より、「平成19年度会計報告」の説明があった。

東明監査役より、「平成19年度会計監査報告」があり、上記について間違いのない旨、報告された。

以上の内容について承認された。

【第3号議案】平成20-21年度会長、副会長、監査役、理事の所属委員会、学会顧問の名誉会員への推薦及び新規名誉会員の推薦について。

大澤事務局長より、本年1月に実施された平成20-21年度会長、副会長選挙の結果、柴崎亮介会長の信任、吉川眞副会長の選任されたことの説明があった。また、監査役として、会員から大佛、長坂さんの提案があった。

人事案件として、先に柴崎会長、吉川副会長、大佛監査役、長坂監査役が承認された。

それぞれ、以下のような挨拶を頂いた。

柴崎会長：情報の流通、オーダーについて、専門家集団として積極的に関わるべきである。執行部は会員からのインプットが無いとアウトプットが困難となるので、皆さんからのご協力をお願いしたい。

吉川副会長：遠方（大阪）だが、学会発展のために尽力したい。

長坂監査役：宜しく願いしたい。

引き続き、大澤事務局長より、「所属委員会一覧」の説明があり、2月に全理事に希望アンケートをとった上候補とさせて頂いたものではあるが、必ずしも第1希望ではない旨、説明された。

大澤事務局長より、「学会顧問の名誉会員への推薦及び新規名誉会員の推薦について」の説明があり、名誉会員として伊藤滋先生、伊理正夫先生、枝村俊郎先生、中村英夫先生、西川治先生、野上道男先生、坂内正夫先生の7名の推薦が説明された。

以上の内容について承認された。

【第4号議案】平成20年度事業計画、平成20年度予算について。

大澤事務局長より、「平成20年度事業計画」の説明があり、メールマガジンの状況、新規事業として掲載されている委託事業、2009年度に向けての計画について質問があり、メールマガジンについては、作業中の報告があり、新規事業として掲載されている2点については、具体的内容がないことから削除する報告がなされた。

落合会計担当理事より、「平成20年度予算」の説明があり、収入の部「会費収入」の算出方法を会員数×年会費としたため、会費収入が実現見通しよりも多く計上され、その結果「予備費」が多く計上されているが、このような余裕がないことを認識していただきたいとの説明があった。また、法人化に向けて、新しい会計基準に沿った予算、及び会計処理とする必要が出てくるので、10月の総会時に経理規程を改定し、改訂後の規定に基づいた予算の組み替えが必要となることも説明された。広報委員会よりホームページ更新のためのレンタルサーバ費用等計上する必要がある旨の質問があり、今後の計画として対応するという報告がされた。

以上の事業計画、当初予算案について承認された。

【第5号議案】「平成20年度学術研究発表大会について。」

柴崎大会本部長より、「平成20年度第17回GISA研究発表大会について」説明され、場所が生産技術研究所である旨、訂正された。

以上の内容について承認された。

議案は以上であるが、会場に参加されている新委員長挨拶などが行われた。

小口渉外委員長：5月28日、日本地球惑星科学連合大会で

「GISセッション」がある旨、報告があった。

河端広報副委員長：魅力的なHPで会員を増やしていきたい。

貞広大会実行委員長：多数の参加を希望する。

確井学会賞委員長：引き継いで、努力したい。

岡部教育委員長：日本学術会議への提言にも尽力したい。

奥貫全国連携委員長：地方事務局間の情報交換を行い、負担の軽減を図るようにしたい。

太田GIS技術資格認定協会：現在90名ほどの認定者がいる。2012年に特例措置（GIS教育を受けていなくとも、経験を判断する措置）がなくなるので、特に先生方に積極的に資格を取っていただきたい。

大澤事務局長：いざという時のために、各委員長には委員会活動内容のドキュメンテーションの提出を、繰り返しお願いしたい。

今井総務担当：事務局での仕事配分のため、各委員長にはタイムテーブルの提出をお願いしたい。

落合財務担当：秋の大会での総会は、定款の承認など一連の法人化関連事項で重要案件が多いので、時間の確保をお願いしたい。

牧野理事：2009年の新潟大会は、10月15日（木）～16日（金）に開催されるので、皆さまの参加を期待したい。その他、GIS学会の書籍に委託販売について、古今書院の担当から挨拶があった。

古今書院：『GIS理論と応用』の委託販売をすることとなった。大学図書館への積極的な呼びかけをしていきたい。

以上

■ 2008年度 予算 (収入の部)

I 収入の部	2007年度 決算額	2008年度 予算額	備 考
1. 会費収入	12,869	15,370	
(1) 正会員年会費	7,721	9,900	1416人
(2) 学生会員年会費	363	890	266人
(3) 賛助会員年会費	4,380	4,380	94件
(4) 入会金	400	200	
(5) 大会時入会	5	0	
過年度収入	862	0	
過年度 正会員	714	0	
過年度 学生	48	0	
過年度 賛助	100	0	
2. 大会参加費収入	1,022	1,000	
(1) 正会員	264	300	150人
(2) 学生会員	32	100	100人
(3) 非会員	280	320	75人
(4) 学部生	14	0	
(5) 懇親会参加費	432	280	70人
3. 刊行物収入	2,869	3,000	
(1) GIS-理論と応用頒布収入	777	1,000	委託販売こみ
(2) 講演論文集頒布収入	1,769	1,700	
(3) 大会誌 (CD-ROM版)	154	200	
(4) 刊行物 送料	121	100	
(5) 用語集	6	0	
(6) 講演論文集 既刊	42	0	
4. 雑収入	71	151	
(1) 受取利息	11	11	
(2) その他	60	140	
5. 受入補助金	0	1,200	科研費
6. 資格認定局	—	—	
合 計	17,693	20,721	

■ 2008年度予算について (落合司郎)

「収入の部1. 会費収入」算定方法を、従来の前年度実績に会員数の増減見込みを勘案して算定する方法から、会員数(年度末登録会員数+増減見込み)*会費の合計から算定する方法に変更した。変更した理由は、2007年度第1回総会(2007年4月28日)で承認された「長期会費滞納者の措置に関する規則」及び一般に公正妥当と認められる公益法人の会計の慣行に従うべく、今後は、登録会員からは全て会費収入があるものとして計上し、一方、未収会費を特定し、回収困難な未収会費については年度ごとに損失として計上することによって、学会の財政状況の実態を分かり易くしていくためである。

なお、未収会費及び回収困難な未収会費についてはこれまで計上してなく、今回は見積もり困難であったため支出の部に計上せず、その他の支出項目は基本的には前年度実績に準じて計上した。

この結果、「収入の部1. 会費収入」が実績見通しよりも多く計上され、一方で、未収会費の支出計上がされていないため、結果として「支出の部11. 予備費」の額が大きくなったが、実際はこのような余裕はない。

「収入の部5. 受入補助金」は、秋の大会と同時開催する

■ 2008年度 予算 (支出の部)

II 支出の部	2007年度 決算額	2008年度 予算額	備 考
1. 大会開催費	1,231	1,000	東大駒場 キャンパス にて開催
人件費	320	400	
会場費	312	330	¥156,800
会議費	95	20	
懇親会費	329	300	
旅費交通費	0	0	
通信運搬費	15	100	
消耗品費	160	50	コピー機導入
諸謝金	0	0	
その他	0	0	
2. 刊行物支出	2,990	3,550	
NL	447	450	
GIS-理論と応用	1,304	1,750	
講演論文集	1,143	1,250	
CD-ROM	96	50	
3. 本部事務局運営費	10,669	11,548	
人件費	5,402	5,500	
法定福利費	540	460	
会議費	13	20	
旅費交通費	831	800	
通信運搬費	1,115	1,450	
消耗品費	660	700	
賃貸料	1,438	1,438	
税理士報酬	573	630	
その他	97	502	
4. 地方事務局運営費	417	800	1事務局 あたり12万 を限度
5. SIG運営費	222	900	1 SIG あたり10万 を限度
6. 資格認定局運営費	236	—	
7. 委員会運営費	0	500	うち20万円 は 編集委員会
8. 総会費	0	80	特別総会 シンポジウム 用
9. 寄付	0	50	地理 オリンピック
10. 国際シンポジウム開催費	0	1,200	
会場賃料	0	50	
消耗品費	0	50	
旅費	0	1,000	
謝金	0	1,00	
その他	0	0	
11. 予備費	136	1,093	
合 計	15,901	20,721	

国際シンポジウムのKAGIS及び東アジアの研究者招聘費用に対して平成20年度科学研究費補助金（研究成果促進費）交付の内定を受けて、120万円計上した。これに対応する支出として「支出の部10. 国際シンポジウム開催費」に同額を計上した。

今回の予算編成から資格認定局を実態に合わせて除外することとした。しかし、以下の会計処理を行い、2007年度決算額に値が発生したため、予算表に項目「収入の部6. 資格認定局」「支出の部6. 資格認定局運営費」を記載した。【実施した処理：2006年度末決算時に資産として計上されていた郵便貯金（GISCD）、郵便振替（GISCD）を2007年度4月1日にGISCDに補助金として支出したという処理を行った。この金額はこの時点で通帳等に記帳されている金額であり、改めてGISAから振込みしたというのではなく、通帳等をGISCD管理下に移管したということ。】

今後、法人化に向けて、新しい会計基準に沿った予算及び会計処理とする必要が出てくるので、10月の総会時に経理規程を改訂し、改訂後の規定に沿う予算の組み替えが必要となる見通しである。また、これまでのような単年度で収支をバランスさせる予算ではなく、正味財産の有効活用化などで学会活動を活性化するための事業に対応した予算とする必要もある。従って、今回の予算案は当初予算とし、今後、予算の組替えや補正予算の編成を見込み、回収できない会費の償却の計上、「過年度会費収入」の扱い並びにホームページ改修など総会で提案された事業の予算化などに対応する予定である。

【学会からのお知らせ】

■ IT理事会報告

・2008年3月13日付

4月26日開催予定の総会に先立って開催される理事会を、予め4月中旬にIT理事会の形式で開催する件が承認された。

・2008年4月17日付（春季理事会として開催された）

回答者総数44名（うち委任者6名）理事総数56名の過半数（78.6%）の参加により、成立した。（会則第16条4項）

- 1) 平成19年度事業計画、会計・監査報告について承認された。
- 2) 平成20-21年度会長・副会長・監査役候補及び新理事所属委員と名誉会員推薦について承認された。
- 3) 平成20年度事業計画、予算について承認された。
- 4) 平成20年度学術研究発表大会について承認された。

【委員会報告】

■ 企画委員会

（浅見泰司）

今年度の活動計画は、地理情報科学に関連する学会企画について対応する。特に、災害対策、法人化、地理情報科学の振興などに関連した企画や情報発信を検討する。

■ 広報委員会

（正木千陽）

1. 平成19年度事業報告

1) ホームページの管理

大カテゴリごとに担当者を決定し、事務局からの2週間に1回の更新依頼への対応や、会員情報更新ページの新規公開を含め、円滑な更新に努めました。

2) 会員獲得のための施策実行

オンライン入会ページを平成19年5月に公開し、入会手続きの簡便化を図りました。その後は、入会者数111名中約80人がオンライン入会ページを使用しております。

2. 平成20年度事業計画

会員数アップにつながる魅力的な学会ホームページを目指し、定期的な更新体制の維持とともに、ブログ形式の新システムへの移行を予定しております。

1) ホームページ更新体制の維持

既存ホームページについて、以下の大カテゴリごとに広報委員にて担当者を置きます。

HOME（ニュース、イベント）／研究発表大会／学会賞／機関誌／GIS資格認定協会／リンク

特に、HOMEについては、昨年度同様、事務局からの依頼に基づき、2週間に1回の定期更新を実施します。また、リンクについては年2回の更新を実施予定です。

2) ブログ形式の新システムへの移行

平成20年10月を目標に、更新の簡便化及びコンテンツの充実を図るために、現在のホームページをブログ形式の新システムへ移行予定です。

SIGと地方事務局活性化のために各分科会と地方事務局にページを割り当てるほか、RSS配信も検討中です。

3. イベント情報掲載についてお願い

トップページに掲載するイベント情報は、2週間に1回更新致します。希望者は、イベント開催1か月前までに事務局へ掲載依頼を出していただきますようお願いいたします。

■ 教育委員会

（岡部篤行）

今年度の活動計画は、次の通りです。

1. GIS学術士資格の普及
2. シンポジウム「地理空間情報社会における空間的思考力の育成と人材育成」— 米国地理教育の実践と日本における課題 —
3. GIS教育研究に関する発表の企画・支援（GIS学会大会でセッション）
4. 日本学術会議の提言などにGIS人材育成を盛り込む提案の作成・支援など。

【学会後援・協賛行事などのお知らせ】

■ 共催「空間情報シンポジウム2008」

主催：株式会社インフォマティクス

会期：2008年7月17日（木）・23日（水）・24日（木）

28日（月）

会場：東京・大阪・名古屋・札幌・仙台・福島・広島・金沢・静岡・高松・那覇 全11会場

<http://www.informatix.co.jp/sympo08/>

■ 共催「GIS Day in 関西 2008」

主催：立命館大学歴史都市防災研究センター／

立命館大学アート・リサーチセンター／

立命館大学文学部地理学教室

会期：2008年8月29日（金）

会場：立命館大学 衣笠キャンパス

<http://www.rits-dmuch.jp/gisday2008.html>

■ 後援「地理空間情報活用推進基本法と電子国土webシステム研修会」

主催：NPO法人電子自治体アドバイザークラブ 他
 会期：2008年6月26日（火）、7月24日（金）、8月11日（月）、
 9月10日（水）、10月6日（金）
<http://e-aac.naist.jp/e-AAC/workshop/h20GISseminar-annnai.pdf>

■ 後援「地理空間情報活用社会における空間的思考力の育成と人材育成

—米国地理教育の実践と日本における課題—
 主催：人文・経済地理と地域教育（地理教育を含む）分科会 他
 会期：2008年7月27日（日） 奈良県新公会堂
 2008年7月28日（月） 日本学術会議講堂

■ 後援「GIS day in 東京 2008」

主催：首都大学東京 地理学教室
 会期：2008年8月25日（月）～26日（火）
http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/announce/2008/gis-day2008_01.htm

【地方事務局報告】

■ 関西地方事務局 (吉川 眞)

前号で案内した活動3件の結果を報告します。まず、GISの運用・利活用と空間情報の生成や利用・応用に携わる30歳以下の『若手による技術研究発表会』を2月23日に常翔学園（旧学校法人大阪工大摂南大学）大阪センターで日本写真測量学会関西支部と共催しました。社会人5件と学生15件の発表に対して、91名の聴講者を得ました。

報告2件目は、『GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会』総会です。3月18日に大阪府立文化情報センターの「さいかく」ホールで開催されました。当組織からは確井元会長と吉川がアドバイザーとして毎年参加しています。大阪府、市町村、公益企業等からの約110名の参加者に対して、今年は確井が「地理空間情報活用推進基本法とGIS」、吉川が「空間情報デザイン色々」と題した特別講演も行いました。

最後は、尼崎市役所の協力のもとで開催した『第8回関西地域GIS自治体意見交流会』です。尼崎市小田地区会館で3月25日に日本写真測量学会関西支部と共催しました。「空間情報社会をめざして」と題して5名の講師による講演とパネルディスカッションにより、基本法施行によるGISの新たな展開について情報交換しました。年度末にもかかわらず、86名の参加者がありました。交流会終了後に会場をJR尼崎駅近くのホテルに移した懇親会でも、活発な交流が遅くまで続きました。

今年度もこの3件の活動は継続していく予定です。なお、吉川は今後2年間、副会長職も務めることになりました。会員諸氏のご支援をお願い申し上げます。

【学会周辺の動向報告】

■ 経済産業省キッズデザイン協議会/ 経営者懇談会 [特定非営利活動法人 GIS総合研究所 川添博史]

設立の背景として2003年12月（2000年から準備）、地理情報システムのインフラ普及推進団体として初の内閣府認定

の非営利活動法人として認証をいただきました。当時、元GIS学会長の確井教授との全国行脚や・元学会長山村北大名誉教授・現GIS学会副会長吉川教授・大阪市立大学小長谷教授・元国際日本文化研究センター森氏・KDDI高木氏などGIS総研顧問・アドバイザーとして多くの皆様に幅広くご指導を頂戴し現在も継続ご支援いただいていることに感謝を申し上げ、現状の活動報告を差し上げたいと思います。

GIS総合研究所の非営利活動の柱は主に、社会教育の推進・環境の保全・社会福祉の増進・安全なまちづくり・国際交流など他12の活動項目を定款に掲げ推進しています。今般はGISA事務局からの依頼により4月2日の経済産業省経営者懇談会での活動報告をいたします。経済産業省本省からのお誘いもあり平成18年6月よりキッズデザイン協議会の賛助会員として子供目線の安全・安心に関する研究会に所属しています。GIS総合研究所の役割はとりもなおさず、地理情報システムの推進とベース基盤の支援であるとして各プロジェクトにも参画しています。

本年4月2日、第2回キッズデザイン協議会経営者懇談会が開催され、当初は福田総理が参加の予定でしたが、生憎と日銀の問題や道路財源の課題など山積で結局来られず、経済産業省甘利大臣が昨年に続き参加され、地理空間情報活用基本法の成立を踏まえGISの有用性や役割などを簡略に説明しました。また、国際協力分野においては中国の深刻な水汚染の浄化を支援しています（太湖の水をきれいにしましょう!）との話題提供されたらいかがでしょうかと提案。



中国胡錦涛国家主席の来日にあわせて中日文化経済交流協会廣田隆一郎会長（川添：顧問）が中国側の窓口として活動している関係で、無錫の太湖と滋賀県の琵琶湖の協定を湖協定として全面的に支援する目的で本年1月から3月にかけて、中国江蘇省無錫市水資源保護及び、循環経済テーマ研修団が来日した際の受け入れ窓口になり滋賀県嘉田知事との対談を実現。その際「一朝一夕にはきれいにはなりませんよ・・・」との知事からの話もあり環境教育が重要であることを再認識させていただきました。・・・「その旨、よろしく総理にお伝えください」との話をしたら、甘利大臣から「よろしく頼むよ・・・」と握手を求められ翌日大臣秘書官とお会いすることになり、「環境分野もさることながら、馳せる思いはワープロがパソコンの日本語入力として当たり前の手段になったように、GISも位置や空間に紐付けられる様々な情報の入力手段として使われるような世界になっていくことが望ましいかと・・・、また一般の人々が位置や空間情報を入力する必要なサービスにつながれば日本経済の発展に大きく寄与できるものと確信していま

す」・・・と説明。以上、近況活動報告まで。

■ 今年開催されるGISに関する国際会議の紹介 [東京大学CSIS 有川正俊]

- (1) Asia GIS [ブサン, 韓国, 08.9.26-27]
<<http://www.asiagis2008.com/>>
現GIS学会会長の柴崎亮介教授(東大)は、ASIA GIS ASSOCIATION (<http://www.asiagis.org/>)の会長でもあります。ASIA GIS ASSOCIATIONが隔年で開催する国際会議。
- (2) Ubiquitous, Pervasive and Internet Mapping
[Shepherdstown, West Virginia, USA, 08.9.10-11]
<<http://www.ubimap.net/upimap2008/>>
国際地図学会(ICA)ユビキタスマッピング委員会(代表:森田 喬, 法政大学)が中心になって隔年で開催している国際ワークショップ。米国で最大の地図学コミュニティのシンポジウムAutoCartoと連携開催。
- (3) Asian Symp on GIS [新潟, 08.5.22-23]
<<http://www.gisa-niigata.org/>>
日本・韓国・中国の計算機科学の研究者が中心になって開催する国際シンポジウム。今回の運営は、大沢裕教授(埼玉大)、牧野秀夫教授(新潟大)が中心になって行った。
- (4) Networked Sensing, Urban Lives, and Human Probe
[東京, 08.6.16] <<http://osoite.jp/NSULHP2008/>>
アーバン・センシングなどの先進技術を扱う国際シンポジウム。
- (5) Web and Wireless GIS [上海, 中国, 08.12.11-12]
<<http://www.w2gis.org/>>
日本のCSコミュニティから始まったGISの国際会議。毎年開催。
- (6) 3D Geo-Information 2008 [ソウル, 韓国, 08.11.13-14]
<<http://3dgeoinfo.uos.ac.kr/>>
- (7) GIScience [Park City, Utah, USA, 08.9.23-26]
<<http://www.giscience.org/>>
GIScienceの研究者が隔年で集まる最大の国際会議。フルペーパー採録は難しい。
- (8) GI Days [Munster, Germany, 08.6.16-17]
<<http://www.gi-tage.de/>>
GIScienceが理論中心であるのに対し、産業界との接点を求めている国際会議。
- (9) ACM GIS [Irvine, CA, USA, 08.11.5-7]
<<http://acmgis08.cs.umn.edu/>>
計算機科学の学会であるACMが主催するGISの国際会議。
- (10) LBS and TeleCarto [Salzburg, Austria, 08.11.26-28]
<<http://www.lbs2008.org/>>
ICAの副会長であるGeorge Gartner教授(ウィーン工科大学)が中心となって毎年開催している国際会議。昨年は香港工科大学で開催。
- (11) where 2.0 [Burlingame, CA, USA, 08.5.12-14]
<<http://en.oreilly.com/where2008/>>
O'Reillyが主催する、Web 2.0と地図サービスの融合などの先端的テーマを対象とするIT系国際会議。GoogleやAutodeskなど多くの企業がスポンサーになっている。
- (12) GeoWeb [Vancouver, BC, Canada, 08.7.21-25]
<<http://www.geowebconference.org/>>
OGC系の技術者・研究者が中心になって、GMLやKMLによるGeoWebインフラの実現に関する国際会議。
- (13) Semantics and Conceptual Issues in GIS [Barcelona,

Spain, 08.10.20-23]

<<http://cs.ulb.ac.be/conferences/secogis08/>>

ER2008という意味モデリング分野では最上位の国際会議に併設されたGISモデリングに関する国際ワークショップ。

- (14) Cartography and Art [Vienna, Austria, 08.2.1-2]

<<http://cartography.tuwien.ac.at/artandcartography/>>

地図とアートの融合をテーマとするICA系の国際シンポジウム。

【GIS関連書籍の書評】

- 有川正俊、太田守重監修「GISのためのモデリング入門」SoftBank Creative、2007年、3200円
[埼玉大学 大澤 裕]



GISは分野横断的な技術分野であり、実に多くの基礎知識が必要となる。これがGIS分野を志そうとする学生や若い研究者・技術者にとって1つの障害になっていると思われる。まず、(1) GISで解決しようとする問題に関する知識が必要である。また、GISは情報システムであり、(2) データ管理法、提供法や処理法などの情報科学の知識が必要である。更に、(3) 空間参照、座標系、地図作成、地図表示、誤差など、地図データに関する諸々の知識が必要である。

一方、GISに携わる人には(a)興味ある目的を果たすためツールとしてGISを利用する、(b)測量などデータ取得・提供の観点からGISを利用する、(c)情報システムの視点からGISを開発する、などの各グループが存在するものと思われる。それぞれのグループが(程度の多寡はあるものの)上に挙げた各知識の基礎を習得する必要がある。

先に挙げた各知識の内、(1)に関しては非常に多岐に渡る。幸い都市計画、マーケティング、防災、環境、林業、教育などの各分野での応用を扱ったGISの書籍は多い。しかし、(2)と(3)の分野に関してその基礎知識が述べられている図書が和書では意外に少ないと感じている。昨年度まで東京大学を中心に科学技術研究費によるGISカリキュラムの検討が進められ、GIS技術者の教育に際して必要となる知識が整理された。その中でも(2)や(3)の知識の重要性が謳われている。これらのうち、本書は、(3)を中心に書かれたものであり(2)に関してもふれられている。具体的には、地図で用いられる座標系、時間に関する記述、地理識別子や空間参照、位置正確度、メタデータなど、GISを学ぶ上で必要となる知識を提供している。

本書では、空間データの定義(空間データスキーマ)にUML図が用いられている。UML図は地図データに限らず、様々なデータ表現の分野で広く用いられている記述法である。また付録において、UML図について概説されている。このUMLの文法は単純なものであり、この表記法になれた後は気にならないことではあるが、第2章から表れるUML図に初心者には若干戸惑うかもしれない。しかし、UML図に関する部分は、最初飛ばして読んでもGISにおけるデータ表現を鳥瞰することができる。

かつてGISは専門家の為のツールとして開発された。しか

し、カーナビの出現で地図が民生品で使われるようになり、最近では携帯電話を用いたマンナビやGoogle Map等各種地図サービスの利用者は急増している。更に、位置情報取得の手段もGPSやRFIDタグ、携帯電話など多彩になり、ユビキタス社会も身近なものになりつつある。若干楽観的な見方をすれば、その社会では空間情報の利用も多様化しビジネスチャンスも拡大するものと思われる。しかしそこで必要となるのは、空間情報に関する知識を有する技術者の養成である。本書の目的もここにあると「はじめに」に記されている。

GISに関する書籍は多数刊行されてきたが、そこで扱われるデータについて詳細に述べられているものは極めて少ない。またISO/TC211やJIS X 7100シリーズなどの言葉は知っていてもその具体的な内容に関しては明確に知らないGIS技術者も多いものと思われる。本書は、GISで扱われるデータの規格に興味があってもその規格自身を読むには抵抗がある技術者にとっても最適な書であると思われる。

【コラム】

■ 地理空間情報活用推進基本法の発効 【社団法人 日本測量協会GIS研究所 平田更一】

1. 基本法とは？

最近、マスコミを賑わす言葉に基本法という言葉がある。GISに関係する分野でも環境基本法（1993）、高度情報通信ネットワーク社会形成基本法：（2000）、海洋基本法（2007）、そして地理空間情報活用推進基本法（2007）等である。基本法とはどういう意味があるかということ、「特定の行政分野等における政策の基本方針を定める法律（Wikipedia）」とあり、憲法と個別法の間位置するという学説があるくらいに重要な位置付けとなっている。しかし、一方では、「基本方針を受けて、その目的・内容等に適合するように行政諸施策が定められ、個別法にて遂行される」と指摘される行政諸政策が定められないと、基本法は実効的な意味を持たないとも言われている。

2. 基本法の内容

地理空間情報活用推進基本法（以下基本法と略する）は、2007年5月に議員立法により成立、同年8月に施行となった。その内容は、空間情報社会を実現するためには「衛星測位」と「地理空間情報の整備と流通」が大きな柱であること、9項目の理念を掲げ、GISという基盤地図情報の整備と流通であり、衛星測位では準天頂衛星の第一号機の打ち上げ、及び技術実証・利用実証である。

理念に強調されているのは、基盤地図情報、統計情報、測量に係る画像情報等の地理空間情報は国民生活の向上及び国民経済の健全な発展を図るための不可欠な基盤とし、その理念を具体化する上では、国、地方公共団体の責務、民間事業者の協力を明記している。

基盤地図情報は、①測量の基準点、②海岸線、③公共施設の境界線（道路区域界）、④公共施設の境界線（河川区域界）、⑤行政区画の境界線及び代表点、⑥道路縁、⑦河川堤防の表法肩、⑧軌道の中心線、⑨標高点、⑩水涯線、⑪建物の外周線、⑫市町村もしくは字の境界線及び代表点、⑬街区の境界線及び代表点の項目から形成されるものであり、その測量精度としては、都市計画区域にあって平面位置が2.5m以内、都市計画外では25m以内、高さの誤差が都市計画内では1.0m以内、都市計画外では5.0m以内であり、原則的な考え方としては基本測量、公共測量及び水路業務法に

従って測量された成果から基盤地図情報を作成することを明記している。

基盤地図情報の項目としては、道路縁、測量の基準点とは別に標高点が加えられたことである。その測量精度から言うと2,500の地図情報レベルであり、道路部の延長、面積を管理する道路台帳付図と比較すると、従来の都市計画的なイメージでは道路縁という概念が厳密でないこと、標高という場合、航空写真測量における標高点は再現性がやや乏しいという意味では地図情報整備において難しい作業項目ある。また、画像情報が基盤地図情報から欠落したことは、日本的な基盤地図情報という印象である。

3. 基本計画

基本法が施行となった後、『行政諸施策』としての地理空間情報活用推進基本計画が2008年4月閣議決定され、具体的な施策が発表となった。基本計画は、①地理空間情報の整備、流通の促進、②基盤地図情報の整備・提供、③衛星測位の利用推進、④地理空間情報の活用のための産学官連携を強化することの4項目で、平成23年までを計画期間としている。

4. おわりに

基本法成立で追記したいのは、従来は空間データ、数値地図データ、地理空間データ等の様々な名称で混乱を呈していたものが、地理空間情報、基盤地図情報、衛星測位、地理情報システム等の用語を法律として定義したことである。基本計画の実施は、緒に付いたばかりである。基本法が定着し、空間情報社会の早期実現に期待したいと念じている。

参考：国土地理院「基盤地図情報」

<http://www.gsi.go.jp/kiban/index.html>

【事務局からのお知らせ】

■ 『GIS一理論と応用』発売元について

『GIS一理論と応用』は第16巻1号から、株式会社古今書院が発売元となりました。これに伴い定価も1冊3,600円となりますが、会員の皆様には、これまでどおりに年2回の発送をいたします。

なお第15巻2号以前のバックナンバーにつきましては、事務局で取り扱います。詳しくはお問合せ下さい。

■ パスワードが同封されていない方へ

別紙で同封されたパスワードは、6月稼働開始のデジタルライブラリーのアクセスに必要なものです。前号ニューズレターでお知らせの通り、パスワードは5月末日迄に年会費を完納した個人会員、年会費口座引落の個人会員、年会費に滞りのない賛助会員に発行されております。

6月以降に会費を支払われた場合は、パスワードを直接事務局までお問合せ下さい。

なお5月中にお支払いになったにもかかわらずパスワードが封入されていない方も、お手数ですが事務局までお問合せ下さい。入金確認の書類到着が遅れている可能性があります。行き違いの段はご容赦下さい。

■ 年会費口座引落ご利用の方へ

引落日は6月27日です。残高のご確認をお願いいたします。

学会SIG連絡先一覧

- 自治体：大場 亨（市川市道路管理課 Tel 047-334-1111 内線5564）
E-mail: BZH06512@nifty.ne.jp
- 空間IT：有川正俊（東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4291）
E-mail: arikawa@csis.u-tokyo.ac.jp
- ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051）
E-mail: kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp
- 森林計画：伊藤達夫（京都府立大学 Tel 075-703-5635）
E-mail: t_ito@kpu.ac.jp
- 防災GIS：畑山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333）
E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp
- モバイル・バーチャルGIS：東明佐久良（大妻女子大学 Tel 042-339-0052）
E-mail: shinoaki@otsuma.ac.jp
- バイオリージョン：田中和博（京都府立大学 Tel 075-703-5629）
E-mail: tanakazu@kpu.ac.jp

- 土地利用・地価GIS：碓井照子（奈良大学）
事務局：西端憲治（株式会社セイコー Tel 0721-25-2728）
E-mail: totiriyo-sig@seicom.jp
- 時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001）
E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp
- 登記GIS：神前泰幸（大阪府土地家屋調査士会 Tel 0724-32-0443）
E-mail: hk2000@dream.com
- 事務局：上田浩（株式会社プロジェクト・パル Tel 072-367-4196）
E-mail: propal@m4.kcn.ne.jp
- 地図・空間表現：森田 喬（法政大学 Tel 0423-87-6270）
E-mail: morita@k.hosei.ac.jp
- セキュリティSIG：川添博史（特定非営利活動法人GIS総合研究所）
事務局：国司輝夫（特定非営利活動法人GIS総合研究所Tel 06-6464-7077）
E-mail: info@gissoken.org
- 自律分散アーキテクチャ：藤田晴啓（東洋大学 Tel 0276-82-9157）
E-mail: fujita-hi@toyonet.toyo.ac.jp
- 空間的思考研究会：今井 修（東京大学 Tel 04-7136-4297）
E-mail: oimai@csis.u-tokyo.ac.jp

2008年5月末現在の個人会員1,679名、賛助会員93社

(3口) (株)パスコ
(2口) NTT情報開発(株)
(1口) (株)アイム、アイエニウェア・ソリューションズ(株)、朝日航洋(株)、アジア航測(株)、(株)アルプス社、(株)インフォマティクス、(株)ウインディーネットワーク、(株)ウチダデータ、ESRIジャパン(株)、(株)NTTネオメイト、(財)愛媛県土地家屋調査士会、応用技術(株)、(財)大阪市都市工学情報センター、(財)大阪土地家屋調査士会、オートデスク(株)、(株)オオバ、かごしまGIS・GPS技術研究所、(株)かんこう、関東甲信越東海GIS技術研究会、(財)岐阜県建設研究センター、九州GIS技術研究会、協同組合GISいばらき、近畿中部北陸GIS技術研究会、クボタシステム開発(株)、くびき野GIS協同組合、(株)こうそく、幸陽測量設計(株)、国際航業(株)、国土情報開発(株)、(株)古今書院、寿精版印刷(株)、(株)サンコム、GIS総合研究所、GIS総合研究所いばらき、(株)GIS関西、(株)ジオテクノ関西、清水建設(株)、(株)ジャスミンソフト、上越GIS技術研究会、(株)昭文社、(株)セラータムテクノロジー、(株)ゼンリン、(株)創建、(株)総合システムサービス、(株)ソキア、(株)大設、大日本印刷(株)、(株)谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタント(株)、中四国GIS技術研究会、テクノ富貴(株)、電源開発(株)、東京ガス(株)、東武計画(株)、東北GIS技術研究会、(株)ドーン、(株)トロピカルテクノセンター、内外エンジニアリング(株)、長野県GIS普及促進協議会、にいがたGIS協議会、日本エヌ・ユー・エス(株)、日本GPSソリューションズ(株)、日本情報処理開発協会、日本スーパーマップ(株)、(財)日本測量調査技術協会、(財)日本地図センター、日本都市整備(株)、パシフィック・コンサルタンツ(株)、(株)日立製作所中央研究所、(株)ビープルメディア、ピツニーボウズ・マップインフォ・ジャパン(株)、(株)ベーシックエンジニアリング、(株)ベントレー・システムズ、北海道GIS技術研究会、北海道GIS・GPS研究会、マゼランシステムズジャパン(株)、(株)マップクエスト、(株)松本コンサルタント、三井造船システム技研(株)、(株)三菱総合研究所、三菱電機(株)、(財)リモートセンシング技術センター
自治体会員：(1口) 大阪府高槻市役所、大阪府豊中市役所、経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、長野県環境保全研究所、兵庫県尼崎市役所、福井県福井市役所、福岡県直方市

編集後記

前任の落合理事から引き継ぎ、始めてのニューズレター（NL）発行です。

新しい試みとして”GIS関連書籍の書評”と”コラム”を新設しました。

さて、次号NLの原稿締め切りは8月中旬を予定しています。活動報告や9月以降のイベント予告、学会への要望などの記事をお待ちしています。

(文責：齊藤 義雄)

地方事務局の連絡先一覧

2008年度～2009年度の地方事務局は以下のとおりです。

<北海道地方事務局>
事務局長：北海道大学 橋本雄一
Tel：011-706-5555
E-mail：you@chiri.let.hokudai.ac.jp

<東北地方事務局>
事務局長：岩手県立大学 阿部昭博
Tel：019-694-2562
E-mail：abe@iwate-pu.ac.jp

<北陸地方事務局>
事務局長：新潟大学 牧野秀夫
Tel：025-262-6749
E-mail：makino@ie.niigata-u.ac.jp

<中部地方事務局>
事務局長：名古屋大学 奥貫圭一
Tel：052-789-2233 ext.2236
Fax：052-789-2272
E-mail：nuki@lit.nagoya-u.ac.jp

<関西地方事務局>
事務局長：大阪工業大学 吉川 眞
Tel：06-6954-4201
Fax：06-6957-2131
E-mail：gisa@civil.oit.ac.jp

<中国地方事務局>
事務局長：広島工業大学 岩井 哲
Tel：082-921-5486
Fax：082-921-8976
E-mail：s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp

<四国地方事務局>
事務局長：高知工科大学 高木方隆
Tel：0887-57-2409
Fax：0887-57-2420
E-mail：takagi.masataka@kochi-tech.ac.jp

<九州地方事務局>
事務局長：鹿屋体育大学 山崎利夫
Tel：0994-46-5362
E-mail：yamazaki@nifs-k.ac.jp

<沖縄地方事務局>
事務局長：琉球大学 宮城隼夫
E-mail：miyagi@ie.u-ryukyuu.ac.jp
連絡先：有銘政秀（(株) ジャスミンソフト）
Tel：098-921-1588
Fax：098-921-1582
E-mail：arime@jasminesoft.co.jp

地理情報システム学会ニューズレター

第66号 ●発行日 2008年6月20日

発行

地理情報システム学会事務局
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル4階

TEL/FAX 03-5689-7955

E-mail: office@gisa-japan.org

URL: http://www.soc.nii.ac.jp/gisa/

■ 弥生雑記 ■

北原白秋は「薔薇ノ木ニ薔薇ノ花咲ク。ナニゴトノ不思議ナケレド」と詠ったが、事務局の窓から見える薔薇は不思議そのものだ。四季咲きとは言うものの、同じ樹に年中咲いている。造花かと疑ったこともあるが、桜の頃に一時、花が無かった。本物らしい。

薔薇を眺めながらも、事務局が最も忙しい時期がやって来る。大会の申込書や原稿をとりまとめ、資料を作成し、膨大なメールが飛び交う。帰宅時には薔薇は闇に沈んで見えないが、大会へのエントリーが多いと張り合いも出てくる。多くのご参加、期待しています。
(学会事務局)